

地方経済情報 Weekly No.409

エコ通勤で実現する「脱炭素×健康経営」

1. 熊本県「エコ通勤環境配慮計画書制度」

「2050年県内CO₂排出実質ゼロ」を宣言している熊本県では、「エコ通勤環境配慮計画書制度」を定めています。同制度は、従業員の自家用車による通勤に伴う温室効果ガス排出抑制のための計画及び実施状況を県に報告するものです。県により報告内容が公表されるため、脱炭素に積極的に取り組む企業として、企業イメージの向上にもつながります。

2. 「エコ通勤」の効果

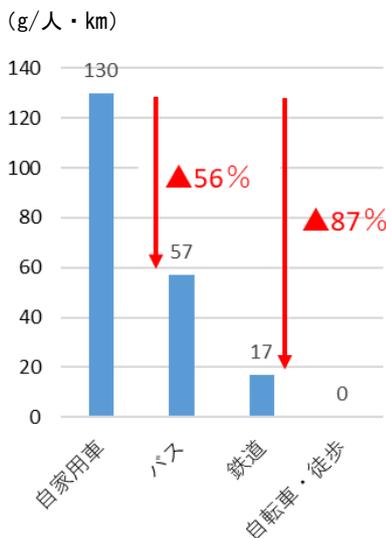
「エコ通勤」とは、自家用車で通勤する代わりに、バスや電車等の公共交通機関や、自転車、徒歩で通勤することを指します。自家用車からバスに切り替えた場合、CO₂排出量は56%、鉄道では87%削減することが可能です(図表1)。渋滞の緩和にも寄与するため、さらに削減効果は高まると考えられます。

また、特に自転車・徒歩による通勤は、従業員の健康面にもプラスの効果があります。通勤時の交通手段「自家用車・公共交通機関」利用者と比較した場合、心臓疾患やがんによる死亡リスクが低いことが明らかになっています(図表2)。

3. 実施にあたり

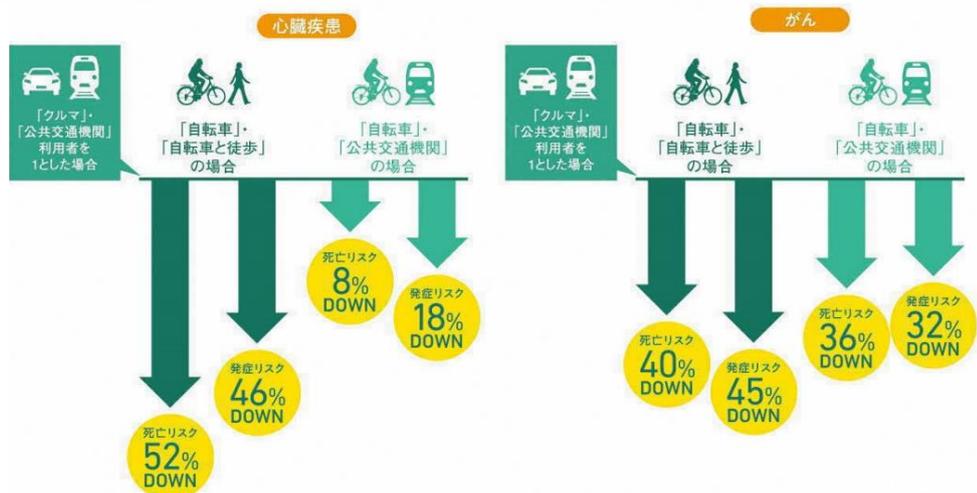
自社でエコ通勤を実施するにあたり、インセンティブの導入等、従業員の取組みを促す具体的な方法が下記の手引き^{※1}に公開されています。また、CO₂削減効果の算定にあたっては、県が公開しているツール^{※2}が利用可能です。脱炭素の推進、社員の健康増進と、まさに一石二鳥な「エコ通勤」に取り組んでみてはいかがでしょうか。

〔図表1〕 輸送量当たりのCO₂排出量
(1人を1km運ぶのに排出するCO₂の量)



資料：国土交通省 HP より作成

〔図表2〕 通勤時の交通手段別に見た心臓疾患・がんによる死亡・発症のリスク



資料：熊本県「熊本県自転車活用推進計画(2022年3月)」

※1： [事業所における「エコ通勤」実施の手引き](#) (国土交通省)

※2： [エコ通勤かんたん算定ツール](#) (熊本県)